

經部

欽定四庫全

經部 毛詩李黄集解卷二十五

詳校官監察御史臣左 周 退使司副使臣其赡菜覆勘

總校官編修臣王熊緒 校對官中書臣袁文部 腾 録監生臣李進克

为民日后在日 依匪母不屬衙于毛不離于裏天之生我我辰安在竟 并及一刺出也太子之傅作馬 為預斯歸飛提提是移民莫不穀我獨于罹力和 The state of 何心之夏矣云如之何敢敢徒歷 毛詩集新 桑與存之恭敬止靡瞻匪父靡 馬如轉假麻永嘆維憂用老 李樗黃櫄 撰 周

無枝心之憂矣寧莫之知相彼投兔尚或先之行有死 匪山莫浚匪泉君子無易由言耳屬于垣無近我深無 反 矣析新地成以矣舍彼有罪子之伦吐賀矣其惠 奔維足伎伎其近維之朝能尚求其雌聲彼壞未疾用 鬱彼柳斯鳴蜩係堪堪呼處有雅万罪者淵在養源自少以人之一 墨 卷二十五 金とでんと言い 君子信讒如或轉亦由之君子不惠不舒究之代木持 及可聽彼舟流不知所届心之憂矣不遑假雅應斯之 人尚或瑾之君子秉心維其忍之心之憂矣涕既順之 のでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mmのでは、100mm

發我苟我躬不閱遑恤我後 李曰太子宜白平王也且曰申后之子也逃王既愛

褒姒生子伯服遂廢申后以伯服為太子遂逐宜臼 左傳曰至于幽王天不弔周王昬不若用愆厥位攜

自立故謂之攜王諸侯熙之而立王嗣也此詩平王 也王嗣指宜臼也詳左氏之文則是幽王既死伯服 王姦命諸侯點之而建王嗣用選好郭攜王指伯服

飲定四庫全書 N 毛詩集解 為太子見弃之時其傅之所作也弁彼獨斯此章言

中之文而言之提提毛氏以為羣不如王氏以為安 者孔氏曰斯者語解猶寒彼肅斯苑彼柳斯孔氏以 楊子雲曰頻頻之黨甚於譽斯子雲之意豈不因詩 劉孝標之博學而類苑鳥部立緣斯之目為不精然 為鴨 時鳥廣雅曰不反哺者謂之雅其謂之譽斯 已之失其所也弁樂也器斯鳥名兩雅曰器鳴名軍 好人提提亦是安也穀養也言以察斯之鳥乃能升 居又名雅烏郭璞曰雅烏小而多羣腹下白江東呼

一次定四東全書 | 淮南王曰臣将見宮中生荆棘露沾衣也周道鞠為 無罪見逐故心之憂以為将如之何敢敢問道此章 樂庫飛而且安然今太子不得所安則曾察斯之不 平易而盡鞠為茂草乎見其國之将亡也漢伍被謂 則言周之将亡也邸賦說文曰行平易也以周道之 若也凡民莫不得以相養而我乃獨見弃於父母則 凡民之不如也既不如霧又不如民於是號呼而告 之於天曰我有何罪乎又曰我之罪當何如邪惟其 毛許集新

煬帝不旋踵而禍及之幽王所為如此其受禍也必 矣此我心之憂傷怒焉如構也怒思也構如以物而 茂草正猶王宮生荆棘皆以見其将亡也此詩言鞠 立胡亥晉廢愍懷太子而立惠帝隋廢太子勇而立 離大夫過宗周而盡為恭豈太子傳之言為有驗犯 褒姒威之是以褒姒之寵而知國之将亡也其後黍 為茂草非是當時已如此特預言之耳如赫赫宗周 自古廢嫡立庶未有國不受其禍秦廢太子扶蘇西

| 設定四車全書 | · 毛詩集解 敬於君子也可知矣父兄種之木尚加敬止況人之 子几杖則起其類是乎盖以見君子之几杖則起其 事維憂其老故其心之憂如夫人之頭痛也詩言其 也陸農師曰桑梓父兄所植尚或敬之也禮曰見君 桑與梓范內翰曰此章言国白孝敬而幽王之不察 心之憂矣有五其言之重複者以見其憂之甚也维 朝尚早坐而假雅是不脱衣冠也假雅之中長嘆此 構心也不脫衣冠曰假寐如宣公二年趙盾盛服将 遭讒謗也宜白之遭見弃者宜亦生辰之不祥也故 弃宣我之不屬於毛乎豈我之不離於裏乎屬離旨 之辰月宿南斗惟其所生之辰不祥如此故其所以 而遭難如此豈其所生之辰不祥那如韓退之我生 得處母之胞胎乎辰者日月星辰所會也言我所生 所恃惟母所怙惟父敢不恭敬乎恭敬如此而乃見 之皮膚處母之胞胎今我獨不受父之皮膚乎獨不 附麗之解也夫人之所以見爱於父母者以其受父 表二十五

為父而不能容其子乃使之如不繫之舟不知所至 今乃伎伎然而舒遲者待其羣也維之朝時雖然而 無恩御其子禽獸之不如也應之奔走者宜其疾速 故我心之憂至不遑假寐也應斯之奔此章言王之 則有鳴蜩淵深則有崔葦柳之與淵肯能容物今王 然而深者淵也其傍則有在華之淵淠然而茂柳繁 已也竟然而茂者柳也其上則有鳴蜩之堪堪然淮 曰天之生我我辰安在菀彼柳斯此章言王之不知

决定写事全書 一

毛詩集解

譬如木之無枝則其勢孤矣此我心之所以憂而自 其羣維足伎伎姓之朝館尚求其雌則是又鹿姓之 利王之不能容其子曾柳湖之不如也又言鹿尚待 莫有知之者夫以此詩既言菀彼柳斯有淮者淵以 鳴者求其雌而並飛今幽王弃其子是全無親親之 而弃其子是誠何心哉虎狼有父子之仁以虎狼猶 恩弗如鹿之有所待而雅之有所求也王既弃其嫡 不如也夫以應尚待其羣雄尚求其雌而王乃安然

飲定四車全書 | 198 尚及於死者況生者乎文王之於朽骨非有父子之 夫以冤特禽獸耳塗之死人又非親戚皆有不忍之 愛其子而王乃弃其子是禽獸之不如也相彼投死 親猶且愛之則其心可知也幽王之於父子之親猶 於垂淚也文王之葬朽骨當時之人以為文王之仁 心今幽王之存心乃忍為此此我心之所以憂而至! 人尚有掩覆之者瑾埋藏也左氏曰道瑾相望是也 相視也視被掩免者尚有先驅而走之者道中有死 毛詩集新

不亦甚明獻公不能徐而察之此中生所以有新城 蓋言幽王之信讒如獻疇之無不受飲而幽王既不 愛其子故內讒言更不舒宪其為何如也王尚能徐 究之則讒言亦不難見也如太子申生歸胙于公公 讒克内翰曰此章言王之信讒怒其子而不循理也 大大斃與小臣小臣亦斃大寡諸宮六日則其經潛 田姬真諸宮六日公至毒而獻之公祭之地地墳與 且如此疎者亦可見也沉欲澤及於斯民乎君子信 **民定四東全書** 薪者公觀其理而她之者蓋隨其理而漸析之不欲 妄挫之也今此王御其子不循理舍彼讒言有罪之 必有讒言交構於其問觀中生楚太子之見無而聽 人而加罪於我則是妄加人之罪矣伦加也幽王之 之不察耳伐木者将其顛而伐之不欲妄踣之也析 見點則聚似之徒其踏之也必有以深乱之特與王 姬費無極之徒姦言巧辭可謂深矣今中后宜白之 之禍鄉王之誅其子何以異此然中后宜白之見點 七的集新

金グレノフラ 幸者猶且舍之況於彼聽人之有罪變白為黑幽王 時若舍有罪既伏其辜若此無罪為胥以鋪有罪伏 恤則鄉王之不明也甚矣其不仁也亦甚矣莫萬匪 親視之如路人乃以讒言為可信而以其子為不足 安能辨之邪夫父子天屬之親也今幽王弃天屬之 言而人其我聽也而人将有獨耳於垣牆而聽之者 而人則入之王者勿以九重之還天子之尊輕易其 山莫浚匪泉萬莫如山也而人則登之浚莫如泉也 装二十五

萬子曰小舟小人之詩也萬子徒知勞而不怨之理 能恤其後事哉 首譬如褒似伯服奪其子母之愛今我躬之不容安 怨勞之而怨固非理也至於弃之而不怨亦非理也 論曰孔子曰詩可以與可以觀可以羣可以怨吾於 小弁見之夫父母愛之喜而不忘父母惡之勞而不 之父子不可不戒無逝我梁四句與谷風同逝梁發 王為輕其言而不能愛太子則小人将乘間以離人

沙定四車全事 一、毛詩集解

怨慕之意韓文公著履霜操以尹吉甫之子伯奇無 不若是恝也小弁之詩曰何辜于天我罪伊何亦是 不見愛之由是怨慕也故公明高以為孝子之心為 之不我爱於我何哉舜不見愛於父母則思其所以 之也蓋父母弃而不怨則愈疏舜號泣於天曰父母 之也其兄關弓而射之則已垂涕泣而道之無他成 而不知所當然者故孟子深陳其曲折而闢之曰有 人於此趙人關弓而射之則已談笑而道之無他疏

次已日本社会 一個 故孟子曰親之過大而不怨是愈疏也愈疏則與路 相遭一不得意情怨而去無復介意曾何有恩義哉 亦舜怨慕之意爾蓋子而見弃尚或不怨是猶路人 為又曰母生衆兒有母憐之獨無母憐兒寧不悲是 親也其辭曰父兮兒寒母兮兒飢兒罪當答逐兒何 怨其身之不父母憐也言人之不得於父母者當益 罪為後母疾而見逐故著此操注曰追帝舜之事明 人等爾即此觀之小弁安得為小人之詩邪雖然鄉 毛詩集解

金グセムノニで 昏恣之主也元帝欲廢之而師丹正諫蓋嫡庶之分 **懦之主也高帝欲廢之而張良之徒為之謀成帝亦** 通曰太子天下之本也本一搖則天下震動惠帝柔 詩人乃譏之者蓋嫡庶之分人主所當先務也叔孫 遷周室自是不復興則平王亦非賢王也必王點之 王之點太子宜白固非也而太子宜白之立周已東 不正則天下震動其禍此矣故雖惠帝之柔懦成帝 之荒忍不敢廢也宜白雖非賢主鄉王廢之卒致聽

威予慎無罪昊天泰無予慎無辜亂之初生僭始既涵 悠悠昊天曰父母且無罪無辜亂如此無及吳天已 無過已君子屢盟亂是用長君子信盜亂是用暴盜言 巧言刺幽王也大夫傷於讒故作是詩也 子作之秩秩大猷聖人莫之他人有心子忖度之躍躍 孔甘亂是用飲養匪其止共善維王之邓奕爽癡廟君 亂之又生君子信讒君子如怒亂庶遄沮君子如祉亂 山之禍則知天下之本其不可動搖如此

天已日奉人

毛詩集解

彼何人斯居河之麋無奉無勇職為亂階既微且種爾 言心焉數之蛇蛇碩言出自口矣巧言如黃顏之厚矣 反 魔又 免遇大獲之在染柔木君子樹之往來行 勇伊何為猶将多爾居徒幾何 堂之以其明也天不疾於用明則令已遇讒鄭氏則 李曰鄭氏曰悠悠思也其意以謂大夫憂思而訴之 於天王氏曰悠悠不疾之意夏曰昊天凡言昊天則 以為大夫之憂王則以為天不疾於用明王氏之言

大三日日 とこう 一毛詩集新 薛令皆曰無撫無敖則無亦敖也然此詩但言其亂 是言天遠大之意言大夫遇讒則呼天曰悠悠昊天 大也鄭氏曰敖也鄭氏之言固有所據如禮記魯令 乃民之父母也今既無罪無辜而遭此亂如是之大 固失之矣鄭氏之言亦未為得也夫悠悠昊天者只 如此之大不當為敖蓋鄭氏以父母為王故以慨為 且語辭耳鄭氏以且為尚且之且不惟文義不合詩 人之意兼以其字屬於父母之下豈詩人之體乎撫

金好以及人工 盡同之不别也詩只言僭不當言信者也此乃言小 王之敖慢無法度然此詩乃是言天為父母而降此 為不信其訓話則得之矣然其羣臣之言不信與信 矣然我其實謹慎無辜也慎毛氏以為誠不如歐蘇 亦甚威矣然我其實畏謹無罪也天降喪亂亦甚大 以為謹亂之初生涵容也僭鄭氏曰不信也鄭氏以 大亂也昊天已威此四句亦上章意言上天降喪亂 人之為讒有斯其始也必為不信之言以常武君之 卷二十五

憚而勿為姦哉唐太宗時陳師合上拔士論謂一 生也子張問明子曰浸潤之器膚受之愬不行馬可 喜怒人君尚涵容而不拒則其志得矣小人於是無 水之浸潤皮膚之受塵亦以其漸人君尚不察則小 浸潤漸於壞物皮膚之受塵漸受塵垢小人之讒如 謂明也已矣孔子此言最盡小人之情狀夫以水之 所忌憚而後進讒言人君必信任之此亂之所以又 人得以逞其志必相謂曰吾之言君不我怒矣我何

阪定四車全書 · 毛詩集解

所由則僭始既涵▼所致也君子如怒過疾也沮止 也元帝不之察其終也蕭望之皆為恭顯所排原其 以嘗試之言入之至於漢元帝優游不斷是以恭願 邪遂斥之獨表使為君者皆如太宗則小人必不敢 不可想眾職做刺諷如晦等太宗曰玄齡如晦等不 之徒周堪蕭望之劉更生張猛四人重相辨論其始 也司馬温公嘗學君子如怒亂無過沮君子如社亂 以動舊進特其才足與有為天下女欲離間我君臣

誅賞如楚莊齊威之事則亂猶庶幾可止也此實名 至誠之威以如社為至公之德亦非也此但言王如 言先儒以君子為在位者其說固非王氏以如怒為 君子以為不幸而至此矣若人君一日覺悟大有所 子則亂無幾遇已矣以言幽王之不能然也蘇氏曰 王如能怒以懲姦則亂庶幾過止矣如能祉以進君 庶過已此言無所賦否為患大矣蓋幽王無所賦否 不能用刑賞以別白善惡以成此亂故詩人教之曰

次定四年全等

毛詩集解

誓適所以長亂矣盗者指小人也禮曰與其有聚敛 考之春秋如伯有之亂鄭伯與其臣下盟蓋盟生於 與臣盟哉使不善之人犯刑誅之可也何至於盟哉 君臣相疑而致也君臣相疑不能察其實而但為盟 能怒能社則可以止亂矣君子屢盟夫治世豈有君 以用暴也飲進也盜言小人之言也小人之言甚甘 之臣寧有盗臣以其害人如盗賊然君子信之此所 人君徒知其甘而不知其禍此亂之所以日進而不 卷二十五

之甘言也逆汝之言即君子苦口之言也唐人之言 味之甘者乃所以為毒也書曰有言逆于汝心必求 其膚毛必致鼓耳摇尾以揮之及鼷鼠食之即不知 諸道有言避于汝志必求諸非道避汝之言即小人 曰鼷鼠之牙食人有其類雖齧盡而不痛俗謂之甘 君子之言如苦口之藥此所以能治疾小人之言如 已也漢張良曰良藥苦口利於病忠言逆耳利於行 口鼠也魯國之牛鼠食其角矣牛之寢處有蚊納撓

次至四年全季

毛詩集解

十四

言安得而不為亂乎匪其止共家語當說此句而繼 痛也鼠之一牙豈不甚於蚊蚋之干瞥乎以其口甘 氏曰此小人好為讒佞者非特於其職廢此供奉而 平食君之角矣又将貫骨與心也觀此則知孔甘之 雖貫心撤骨而不知也況其角乎朝廷之盜亦鼷鼠 也讓人不知所止息故惟王之病此言不甚分明孔 之曰此傷姦臣蔽主為亂也王肅注曰止息也邛病 已又為王之病害也此言似亦未安王氏曰孔甘之

言非止於共適足以病王而已此說是也禮記曰為 廟爽爽大也秩扶有倫也此四句頗難晚今且從歐 非仁義不敢陳於王前當時無以仁義與王言者宣 王堯舜之道也此大人所以能格君心之非也小人 以仁義為不美其心曰是何足與言仁義也云爾則 君止於仁為臣止於敬止共即所謂止於敬也孟子 不能恭敬以事主肆為讒請適所以病王也变爽般 不敬莫大乎是惟其心主於敬則無如孟子之告齊

使之四重全書

毛詩集解

忖度常人之心則不待聰明者雖子亦能之蓋數鄉 氏之說般也廟也衆工之所成也然規為制度本於 柔木以譬善人君子王當樹立之也至於往來行路 兔之酸者為狡兔以譬狡惡之人王所當誅也在染 氏易其章為第五章今亦當從之毫冤說文曰狡免 王獨不能而為護邪所惑也躍躍魔免退大獲之歐 通小人之賤事上達聖人之大道無所不知而至於 君子先王之大道聖人之所謨也意謂聰明之人下

一 飲定四庫全書 自口同言之好惡惟其口之所出曾無實巧言如黃 讀作於度切蛇蛇碩言蛇蛇安閒也小人之情不可! 也被何人斯即議人也麋水草之交左氏所謂吾賜 必晚峻其心而外貌則安然無所恥此所以鮮矣仁· 厚貌深中也孔子曰巧言令色鮮矣仁惟其巧言則 測安間而為大言也出自口矣此與好言自口秀言 巧言如笙中之簧以說人出其言曾無愧恥以見其 之人言又烏足數乎焉先儒讀為夷然切當從歐陽 毛 詩集解

何人斯蘇公刺暴公也暴公為卿士而譖蘇公馬故蘇 言其為謀既大而且多爾居徒幾何而能然哉此言 大可畏其人心之險也如此為猶将多爾居徒幾何 腫夫以此人無勇力又有疾病其人信匹贏矣其禁 汝孟諸之麋是也居河之麋指議人所居两議人既 為讒踏之謀決非一人能之必衆人道之者 無拳力又無勇主為亂階又且疾病爾勇伊何言無 所能也爾雅曰肝瘍為微腫足為種說文曰脛氣足

致定四庫全書 暴之云二人從行誰為此禍胡逝我深不入官我始者 被何人斯其心孔報胡逝我梁不入我門伊誰云從維 公作是詩以絕之 心易也還而不入否難知也壹者之來伸我祇也伯氏 北胡不自南胡逝我梁祇攬我心爾之安行亦不遑舍 其身不愧于人不畏于天彼何人斯其為飄風胡不自 不如今云不我可彼何人斯胡逝我陳我聞其聲不見 爾之亟行追脂爾車壹者之來云何其肝爾還而入我 ときまり

以極反側 斯為鬼為越則不可得有配面目視人罔極作此好歌 吹揀仲氏吹篪及爾如貫諒不我知出此三物以祖一所 序者為卿士則以為在王畿之山邪蘇在春秋則稱 內者也至於暴為幾內國名無所經見豈鄭氏見作 李曰王氏云暴也蘇也皆畿內國名按左傅成公十 則蘇國在温杜預注云今河內温縣是蘇在王畿之 一年回昔周克商使諸侯撫封蘇忿生以温為司寇

氏之說謂彼何人斯為暴公之侶也從歐氏說則是 暴公斤其名也這於同行之俗未斥其姓名乎從鄭 歐氏破之以謂下文云伊誰云從維暴之云是直指 者也疑其與之而未察斥其姓名為太切故言何人 也彼何人斯鄭氏云彼何人平謂與暴公俱見於王 子也祭公之所以稱公者乃三公也猶此蘇之稱公 也正猶祭伯祭公祭之所稱伯者爵也猶此蘇之稱 子而此稱公者孔氏云蓋子爵而為三公也此說是

次已可見全馬

毛許集解

金げてんろう 者其說迂回也當從鄭氏以為暴公之伯鄭氏之說 彼何人斯亦當從議人賤而惡之其文勢不得不如 暴公也上文言彼何人斯下文言維暴之云歐氏以 此經言維暴之云二人從行序但言暴公為卿士者 又曰未察斤其姓名為太切其說自相矛盾則下文 巧言何人斯謂勉議人也賤而惡之故曰何人今此 固然矣但不當以為未察斥其姓名為太切鄭氏於 謂聽讚者伊誰乎乃維暴公之言是從則下文二人

盖序特言踏之所由其始自暴公始也其心孔艱鄭 所以不入我門者必其心有愧恥夫以人之讚人不 逝我魚梁欲利我所有也不入我門者與我絕也其 梁皆是取喻盖以魚梁者皆是取喻無足疑者何為 深非是譬喻也歐氏破之以為詩前後多言母近我 易也夫人心險於山川惟其心傾險此其所以為讚 也胡逝我梁鄭氏謂魚梁也在蘇國之門外則以魚 氏言特其心甚難知不如歐氏以為心傾險而不平

次定日本全事 · 毛詩集解

金児で人人ごで 者偽心也愧恥者真心也人能充其愧恥之心則無 免有所愧恥如象日以殺舜為事而顏厚有忸怩語 於此見之矣不愧于人不畏于天歐氏以蘇公自內 也如是之厚不若今日之薄如今之行不以我為可 往而不為義矣二人從行二人者謂暴公之侶相從 下至門之徑我開其聲不見其身以見小人之情狀 而行我不知誰為此禍何為近我而不入吊我也始 乎以見後之不如舊也陳堂塗也孫炎注爾雅云堂

欽定四車全書 ■ 我先不自我後亦是數已之所遭胡為而逝我梁祇 開服脂汝之車何為而不信我也尚壹者之來則云 于人不畏于天亦猶胡不畏天胡不愧人皆是責小 省無所愧畏然此所謂斥讒人言爾之所為者不愧 之則汝何不閒暇而舎息爾若急速而行平則汝之 所以攪亂我心以見不入官我之意爾若安順而行 之起胡不自南胡不自北數已適遭之也其猶不自 人也彼何人斯其為飄風喻小人往來無節如飄風 毛詩焦解

皆責不入我之家亦以見讒譖之人愧不敢來也伯 我心否塞而難知也以壹者之來則但我祇安也此 **撫篪也塘燒土為之大如為卵鄭司農云塘六孔爾** 氏吹曛仲氏吹篪此又言其相應和如伯仲氏之吹 何其病也商還而入見我則我安還而不入見我則 平底形似稱鍾六孔小者如雞子爾雅曰大篪謂之 雅云大燻謂之部情郭璞云燒土為之如為子銳上 沂李巡云大流其聲非一也郭璞云以竹為之長尺

飲定四事全書 | 貫三物不如鄭氏以豕犬雞之為安也世本云暴辛 我則出此三物以祖爾三物死大難歐氏以為塘蔗 不知我心哉我以為不我知何為而疑我也兩不譖 氏吹篪遂以為壎乃暴公之所善篪乃蘇公之所善 公善燻蘇成公善篪二書但見此詩言伯氏吹順仲 公作琼蘇成公作篪熊周古史考云與王之時暴卒 如物之在繩索之賞此皆言其相應和也如此爾豈 四十圍三十一孔上出徑三分横吹之及兩如貫言 . 毛詩集解

璣注云一名射影江淮水皆有之人在岸上影見水 皆求詩之過也為思為城城如能三足生於南越南 終必見我胡為而為此國語曰面而祖然注回面目 窮爾反側之心也自古謹人如驪姬之讚太子申生 中投人影則殺之故曰射影汝所為為思為城則誠 越婦人多淫故其地多城淫女感亂之氣所生也陸 之貌後世用此句者以為愧恥非也於是作此歌以 不可得而見汝今乃人爾有硯面目而視人無窮言

次足马長 在野司 國 言也謂兩不信捷捷幡騰謀欲語言豈不爾受既其女 是南箕彼醋人者誰適與謀絲絲翩翩謀欲踏人慎圖 **養分斐兮成是貝錦彼醋人者亦已大甚哆兮侈兮成** 巷伯刺她王也寺人傷於讒故作是詩也 情狀可謂隱然而難知也然以此詩窮小人之情狀 反側亦可以見其琴婦云 可謂難知矣如此言我聞其聲不見其身其小人之 如武后之謝王皇后如李林甫楊國忠之讚張九齡 毛詩集新

孟子作為此詩凡百君子敬而聽之 金りに人とコモ 彼籍人者誰適與謀取彼器人投界豺虎豺虎不食投 遷驕人好好勞人草草養天養天視彼縣人於此勞人 界有北有北不受投界有吳楊南之前将于放丘寺人 内小臣也鄭氏之意以議人翻寺人寺人又傷其将 李曰蘇氏曰巷伯寺人是也鄭氏曰巷伯閣官寺人 及巷伯故以名篇是以巷伯寺人為二人此說不然 據此詩所言巷伯序詩者遂以寺人釋之非二人也 **地域は1時に対し続き出版の。**17月ではそび的地域の自然的時候は1月は19月のように、ませのでは、1

盖古之論虚名者多說南其也維南有箕不可以敬 謹人之誣君子亦必因其近似而遂名之斯言是也 色江波王氏曰錦斐也哆侈肯是張大之意鄭氏之 斐文章相錯也說文云姜字從糸今且從經作此夢 鄭氏以何人斯為二人則是以此為二人則非也養 意則以問箕星之所以成由踵已哆又侈而為舌故 字貝錦文如貝文也左太沖蜀都賦曰貝錦斐成濯 也然不如蘇氏之說南箕也因其有是形而命之耳

大巴口巨人的 !

毛詩集新

丰

金分と人ろつい 欲請人爾無他替為也既而告之曰爾無謀欲請人 來貌也捷捷循絲結婚婚補剛副此言議人之意惟 楊維北有斗不可以挹酒漿徒有其名耳上言成是 然亦當慎商言君亦有時以商為不信而去之君於 也解解翩翩解絲毛氏曰口舌聲也翩翩毛氏曰往 乎怪其謀之巧也正所謂為循将多丽居徒幾何是 似而遂讚之也彼讚人者不亦大甚乎誰適與之謀 貝錦則以喻議人織其罪也此言成是南箕因其近 HATTE HELDRICK TO POST BETTER TO THE TOTAL TO THE TOTAL TO THE THE TREE SECTION OF THE TOTAL TOT 卷二十五

與有昊使制其命蓋言惡之之深也楊園園名也敢 議人也勞人被議者也草草憂也勞人之憂無可奈 於北北方寒凉之地使凍殺之北方若不受則擲還 謂既其女遷是也驕人好好好好自以得意也驕人 踏太子其始也雖足以投其志其終也身亦受其禍所 何故呼天而告之曰察此驕人之有罪乎関此勞人 爾言豈不受之乎既而亦舍之而選去也如江充之 之無辜乎取彼譖人投界豺虎豺虎若不受則投界

次年四年在1

毛詩集解

寺

我寺人孟子作此詩凡百君子當敬而行之使自防 有北有北不受投界有是可謂惡之之深矣舜之 作愿刑不試而民咸服觀投界豺虎豺虎不食投界 論曰子曰好賢如緇衣惡惡如巷伯故窮不瀆而民 也 此讒人欲譖大臣故從近小者始孟子寺人之字言 丘丘 名也鄭氏曰欲之楊園之道當先應敢丘以言 四凶流共工于幽州放雕兜于崇山贏三尚于三危

次正日本全等 题 王詩集解 極縣于羽山舜之所去者惟四凶耳而天下之人真 其惡然不能去者以其惡惡之未深此其所以亡也 不成服惟其惡惡如此巷伯也是以刑不試而成服 如後之君善善而不能用惡惡而不能去者非不知 為去茲之術也 不能去則非所謂惡惡如巷伯也為人君者詳巧言 如漢元帝之於恭顯章帝之於實憲非不知其惡而 何人斯之詩則可以為察姦之術觀巷伯之詩可以 Ē,

姜忘我大徳思我小怨 将樂弃子如遺習習谷風維山崔嵬無草不死無木不 轉弃子問問谷風維風及頹将恐将懼寡子干 習習谷風維風及雨将恐将懼惟予與女将安将樂 谷風刺幽王也天下俗薄朋友道絕焉 金グセメノニ 谷風之什詁訓傳第二十 詩是也風俗既衰則日趨於偷游之城而朋友之道 李曰風俗歸厚則朋友有信雖久而欽之如代木 THE RESIDENCE OF THE PARTY OF T 装二十 小雅

者文武之時親親以睦友賢不弃不遺故舊則民德 可以輔仁也朋友之相須既如風之與雨今也當惟 而能又有雨則可以成潤物之功亦猶朋友之相須 謂之谷風毛氏曰風雨相感朋友相須蓋言既有風 民亦從而化之此其所以刺之也習習和貌也東風 絕矣谷風之詩是也天下俗薄朋友道絕而刺幽王 風俗所致幽王既不能遵丈武友賢不弃之道則其 歸厚矣故伐木之詩所以述庶人之求友以見上之

PLIEDING CIENT

毛詩集解

ŧ

金月以及人工 懼真子干懷言其當恐懼患難之時則致我於懷抱 於下相與致其道以格於上則泥而不通矣将恐将 喻者旨是取相須之意王氏以謂相與達其道以施 患難之時則惟我與女二人同其憂至於安樂之時 記念也豈朋友之義所當然乎崔嵬山巓也言谷風 之中不暫忘也及其安樂之時我如遺弃之物無所 也風薄相扶而上喻朋友相須而成此詩以風雨為 女反弃予朋友相須之義豈如是乎頹風之焚輪者

火モワ車とは 養死則風有所不能免也熟為此者乎天地也天地 草木長養成就之則風之德亦大矣然不能不終以 弃之矣如郡寄之於日禄則當絕之矣當是時呂禄 尚然而況人乎此說是也蓋大地之功猶有所不足 也禮記曰哲人其養乎亦是言其死王氏曰風之於 論曰周公曰故舊無大過則不弃也則是有大過當 也今也乃忘大德思我小怨非所以為朋友也 之及物維山之高無所不至則風之德大矣萎衰落 毛許集新 Į

難安危其心當如一與之同安樂而於患難之時則 與馬援同里開相善以為既至當握手散如平生而 於富貴之時則忘之亦非也如公孫述是也公孫述 俗安得淳一而敦厚哉大抵朋友之義富貴貧賤患 弃之其可哉大德可思而不思小怨可忘而不忘風 稷之勢為如何故不得不弃之今也乃欲以小怨而 之宗族親黨日夜相與思慮計議如何當時國家社 不以為念非也如耳餘之凶終是也與之同貧賤而

AND AND THE PROPERTY OF THE PR

武待其故交如盧館陳勝與張耳始居約時相然信 武足以當之此其所以與也谷風之詩公孫述似之 故交嚴子陵與之共臥以足加於帝腹上不以為然 車磬折而入所謂忘其貧賤之交矣惟光武則不然 述盛陳陸衛以延接入立舊友之位述鸞旗警雖就 此其所以不終也蓋公孫述之待其舊友如陳勝光 死及據國爭權卒相減亡回視昔日富貴無相忘之 則其居富貴之時不弃如貧賤之時矣伐木之詩光

大王 日新人生日 一

毛許集解

Ī

金プロアとろう 有優劣矣況其他大節乎 述不能服天下而光武得之但見其朋友之間已自 乃館自取之爾陳勝不能取天下而高祖得之公孫 生館以太尉當以出入以內衣被飲食羣臣莫敢望 雖蕭曹等時以事見禮至其親幸莫及給者則其待 語豈不愧於心乎惟高祖之於盧館與之同里同日 毛詩集解卷二十五 之亦如貧賤之時矣卒之綰亡入匈奴非髙祖之過 卷二十五

東音我五何刺幽王也民人勞苦孝子不得終養爾 我伊蔚哀哀父母生我勞瘁斜之罄矣維襲之恥鮮民 變擊者我匪我伊當哀哀父母生我劬勞變勢者我匪 欽定四庫全書 足已日昼白馬 之生不如死之外矣無父何怙治無母何恃出則衙恤 我復我出入腹我欲報之德昊天罔極南山烈烈飘 入則靡至父兮生我母兮鞠我拊我畜我長我育我 毛詩集解卷二十六 7 毛詩集解 撰

多为四月白書 穀我獨不卒 發發民莫不穀我獨何害南山律律飄風弗弗民莫不 李曰此言幽王之世天下之人苦於征役孝子不得 喪親之所作也變長大貌猶所謂變被蕭斯也鄭氏 此詩之言出則衙恤入則靡至則是言孝子行役而 在征役之所不得見也歐氏以為滞泥之甚矣然觀 以終身養爾鄭氏曰不得終養者二親病七之時時 回我已夢變長大我視之以為非我反謂之萬與者! 巻二十六

た 日日草公書 萬也我難可食而萬不可食采我者将以食之譬如 喻憂思在征役中心不精識其事王氏亦同此說歐 生子者將賴其養也幽王之世孝子行役而遭喪哀 報之也其說比於鄭氏為優然不如蘇氏之說我難 我之生也父母養育我亦的勞矣而我不得終養以 被草木之微者其茂盛如此由天地生育之功也思 役不得終養於父母見彼學夢然長大者非我即萬 氏則破之以謂以文害辭故其辭以謂民人告於勞 毛詩集解

金岁世屋台灣 益餅小而壘大也罄盡也鄭氏以謂刺王不使當分 哀哀父母生我勞瘁言父母之生我亦的勞矣今乃 嬰爾雅曰小嬰謂之坎注曰異形似壺 人者受一 殊無以報之其心如何哉蔚壮故也此章亦是上意 其父母生已之勞而終不得養如采我者之得萬也 而至於天天亦可謂的勞矣父母之於我如此今我 父母以棘心喻其子棘心難長之木也而飢風吹之 不得養其父母此所以可哀也凱風之詩以凱風喻 - WERECONDICTED AND DESCRIPTION OF SERVICE AND DESCRIPTIONS

火之四年全書 間 皆不如蘇氏以鮮為善言民以初生為善今也孝子 言無父何所怙乎無母何所恃乎其出則抱憂思而 情矣舊時以生為善今既如此不如死矣街恤憂也 詩曰鮮我方將亦是善也善者蓋善生惡死人之常 行役而不得以終養父母是不如死之久矣此山之 日少王氏亦以為其禍已熾則民鮮矣故謂之鮮民 貧衆恤寡其說不類王氏皆以餅喻民雲喻王餅罄 則為王之恥鮮毛氏以為寡鄭氏遂箋之以謂供養 毛詩集剛

金ラリカ 南山烈烈然寒飄風發發然而疾皆以與王之虐政 恩如此我欲報之當何如哉故其心之欲與天無極 反復於我其恩如此出入又腹我腹懷抱也言受其 其生育之恩以見其恩之厚也顧我復我言其尚旋 生我母分則鞠我拊我畜我長我育我此皆重複言 去其入也則不見父母如無所至此以傷痛之甚也 也鄭氏曰我欲報父母是德昊天乎我心無極非也 父兮生我母兮鞠我此以見父母之恩大也父兮則 CHALLES AND THE THE TAKE OF THE CASE OF THE TAKE OF THE CHARLES AND THE CASE OF THE CASE O

 使定四車全書 益此詩解哀而切讀之易使人感動正如凱風之詩 未當不三復流涕門人受業者亦廢學學者我之篇 述父母劬勞之志亦無不切不讀此詩無以見孝子 何害而遭此又不得以終養也故曰民莫不較我獨 猶烈烈也弗弗猶發發也民與不得以相養而我獨 烈然飄風發發然而寒且疾也此非詩人之古律律 何害我獨不卒晉王東讀詩至哀哀父母生我的勞 下章亦是此意鄭氏曰民之自苦見役視南山則烈 毛詩集解

之志孟東野之詩以其草比其子以陽春比父母寸 草不足以報陽春之德蓋本諸此推父母之劬勞如 與夫父母能安其室則其數於之情可見矣讀詩 母不能安其室故其心思有以教之惟其不得終養 風之詩惟欲其父母能安其室之詩也小弁之詩太 此故其子欲報其德其心無有窮已也當及於詩凱 父母故其哀慕如此向使不困行役不見弃於父母 子見弃之詩也葵我孝子不得終養之詩也惟其父

白

子所履小人所視捲音顧之清所姦馬出鴻暗 詩以告病馬 行既往既來使我心疾有刻洗泉無浸穫新契契審歎 大東行袖其空糾糾葛優可以優霜佻佻公子行彼問 大東刺亂也東國因於役而傷於財譚徒南大夫作是 有餘紫簋鬼發張有採料棘七周道如砥其直如矢君 是詩亦可以與發矣 以此類求之人惟不得事其父母所以哀慕不已讀

足巴田軍公島

*

毛詩集解

五

北有斗不可以挹酒漿維南有箕載禽其舌維北有斗 有長庚有採天畢載施之行維南有箕不可以簸揚維 雖則七襄不成報章院彼牽牛不以服箱東有啓明西 璲不以其長維天有漢監亦有光改彼織女終日七襄 是裹私人之子百僚是試或以其酒不以其漿鞘新佩 哀我憚人新是獲新尚可載也哀我憚人亦可息也東 匹柄之揭 人之子職勢不來西人之子粲粲衣服舟人之子熊熊

金分正屋台電

卷二十六

少是四車全書 一 排然之棘七以載鼎實則其盛饋可知矣言其遇人 李曰此詩言東方之國偏因於賦役民財彈竭故譚 亦曰周之盛時饋諸侯之實容以飧而餘其簋又有 木為之と所以載鼎實也有餘簋發有抹棘七鄭氏 雅熟食抹長貌下華有抹天畢亦是此意 棘七以棘 師滅譚杜元凱注曰在濟南平陵縣西南像滿簋貌 國大夫作詩以告病馬譚國在王室之東春秋書齊 以此二句為喻古者天子施予之思於天下厚王氏 毛詩集解

金ラリ五 直如矢之直君子之人則履而行之小人則瞻而視 長蓋其時周之所取於諸侯者其平如砥石文平其 君子學道則愛人小人學道則易使也君子有勇而 之君子小人盖指當時在位在下也正如論語所 時諸侯富饒其簋之飧餘然而滿其鼎之七排然而 無義為亂小人有勇而無義為盗其曰君子小人 之厚如此然不如歐氏以為足於豐饒之群益當幽 王之時東方之國賦役煩重民財困竭故思先王之 1:17 一次定山車全書 東方之賦重至無小無大皆取於東使我行相其空 出消傷今之不如古也小東大東行相其空此章言 皆是分别貴賤上下之稱也惟君子履此道而行小 **竭鉀送而往周人則空盡受之曾無反幣復禮之意** 其勢困乏則以糾糾然之葛優履霜而行其公子則 不勝其勞此我心所以疾病也鄭氏曰言譚人自虚 **他們獨行至於周之行列皆是輝送而去或往或來** 人瞻而視之今乃不然故我從今反而顧之則潸然 毛許孫解

金りせ 泉也獲刈也鄭氏以為獲落木名其說本於爾雅 於賦役欲王者少寬之也易曰井河寒泉氿泉側出 以流泉浸之則少腐敗而不可用民已勞矣以重役 然毛氏以為刈契契慶苦貌憚勞也此言新已刈 是使我心傷病也歐比以此為非詩人本義益此詩 困之則必將困窮而死故譚人夫契契然而憂苦於 也此鄭氏所以為行說也有洌沈泉此章則言民困 但言東人輸賦往來以是心疾殊無報幣復禮之事 ガノニ 卷二十六

大王司旨一年 使安堵也歐氏曰彼刈新為水浸而腐壞尚可載刈 岩斯人者勞苦而困弊則将死矣故言可以休息之 之新庶幾可載而歸以為用亦猶我人亦可息之而 寝寐之中而感歎東人之劬勞也尚無幾也言已刈 國曾無有勞來之者西人方且盛其衣服聚聚然而 人之勞西人之逸也東人之子自以其職為勞苦王 可以休息但以二事相比也東人之子此章則言東 也此說雖無害然非詩人之意但言新尚可載民亦 毛詩係解

赋 壞無復王室之舊也或以其酒歐陽公曰言當飲漿 貴者之服也私人之試百僚皆言小人得志紀網敗 玉之贵者不以其才之長皆是小人用事故東方之 用也璲玉也佩璲以玉為佩也鞘鞘佩玉之貌也佩 以酒言小人之得志也或不以漿言君子之不得任 者今飲酒矣非也此蓋言或醉以酒或不以疑或醉 自得以至水居之人亦衣熊嚴之非言以賤人而服 重而不均也漢天河也言維天有漢監視於下亦

金罗正石石雪

人三日日 白生丁 襄駕也人之織也經緯往来報及成章今此織女之星 牽牛牵牛其用在服箱也今此牽牛之星徒有其名而 名雖曰繼不成報章徒有其名耳聪明星貌牽牛河鼓! 不可用之於服箱也故明爾雅曰明星謂之故明孫矣 曰明星太白也出東方萬三含今曰明星 民出西方 髙 也服較也化服八尺曰較箱雨較問也牽牛之星名曰 之形者彼織女也七襄從且而慕七辰一移因謂七襄 有光矣今胡為不察此形以言王之不明也改然三問 毛訴係解

長廣為太白也鄭漁仲乃謂啟明金星長庚水星金 字太白白之生母夢長原因以為名韓退之詩曰太白 何星毛氏云只是一星故後世亦以長康為太白李白 三各今日太白觀此則故明即是太白也長東不知是 在日西故日將出則東見水在日東故日將沒則 伴月蘇東坡詩亦曰長庚到晓猶陪月觀此則是以 渾而為一也不如待知天文者而問之也此盖言故 見此詩曰東有故明西有長康則又似是二星不得 西

金分四月石量

· 於定四車全書 牽牛不能為駕車而輸物雖有啓明長展不能助 漿也歐氏曰天雖有織女不能為我織而成章雖有 踵狹舌廣故口禽其舌止方之斗徒西其柄之揭然 徒有箕之名而不可以簸揚箕星四二為踵二為舌 明長庚徒有光明而不知監察於下也採罪親罪所 耳不可以挹酒漿許慎曰揭高舉貌故不可以挹 施之於行列言不可用也箕可以簸米今南方之箕 以掩免所謂田獵畢弋是也今此非星徒有其名但 -- 詩集解 日

寬其賦役均其勞苦必不至於此也古人多以箕斗 是武等句故此併言百官具位莫有其實故賦役之 其意以水章不關重役事故為此說上章既言西人 之子繁聚衣服舟人之子熊罷是裴私人之子百僚 箕不能為我簸揚糠松雖有斗不能為我以挹酒殺 為畫俾我營作雖有天果不能為我掩捕鳥獸雖有 為虚名蓋此數星皆取人間器用之物為有其名而 不均必自小人用事之所致乃若君子之所為必以

四月維夏六月祖暑先祖匪人胡寧忍予秋日凄凄百 四月大夫刺幽王也在位貪殘下國構禍怨亂並與馬 失職則日月星辰名職至多宜聚其大而要者義與 效之能知此則可以為詩矣 此詩之作本無意於為文後之作者必求其法而放 蝕詩歷言星辰不救月蝕之事其體製正類此詩益 王官相近方可以為善譬此則非也害觀厚盧全月 無其實故詩人以為喻而歐陽乃以為若必刺官司

火定四軍全書

毛詩集解

告哀 館匪鮪潛逃于淵山有歲被隰有杞姨君子作歌維 南國之紀盡瘁以仕寧莫我有匪鷄匪薦翰飛戾天匪 尤相彼泉水載清載濁我日構禍曷云能穀滔滔江漢 卉具腓亂離漢矣爰其適歸冬日烈烈飄風發發民莫 不穀我獨何害山有嘉卉侯栗侯梅廢為殘賊莫知其 李曰祖往也鄭氏曰四月立夏矣至六月乃始盛暑 與人為惡亦有漸非一 朝一夕非也詩言祖者乃暑

卷二十六

大足可事 社等 時陽氣方盛至六月而暑往矣是其萬物微衰之漸 章則言夏時二章則言秋日三章則言冬日四月之 是由小人之道長此其所以亂也此說雖無害然亦 其後遂為冬則其衰甚矣以喻幽王之政暴虐愈甚 則陽運而往矣往者屈也來者伸也陽屈而陰信則 也四月維夏六月祖暑乃夏之四月六月也若周之 不必泥於君子小人之說盖此詩三章頗有次第一 既往非是方盛也王氏以為四月維夏而六月祖暑 毛詩集解 +

十一月十二月也豈得為温于羹齊視鬼時羹宜熟 之正月也正歲則替教法如初此夏之二月如食齊 也若用尚之夏則是二月三月也豈得為熱乎以至 夏之時也食齊視春時食宜温也若用周之春則是 視春時羹齊視夏時醬齊視秋時飲齊視冬時此皆 夏之正朔亦不廢也如周官言正月之吉始和是周 時則以夏之二月為夏而周之六月乃夏之四月也 不得為祖暑周時又用夏朔者蓋周雖自有正朔而 卷二十六

無有不忍人之心正猶何草不黃之詩刺幽王之視 句頗難說諸儒之說固多未必是詩人之意一云上 有指夏時者也不可泥也先祖匪人胡寧忍予此兩 之人以我先祖為非人乎胡為忍加殘虐於我也尚 秋也冬也亦然以此觀之詩人之言有指周時者也 王不以人視人也王肅曰征役過時曠廢其祭祀我 民如禽獸故其詩亦曰哀我征夫獨為匪民皆言幽 以我先祖為人則當以人類待我不當視若土於而

尼己日年主告 一

毛詩集解

ナミ

多分でた 作詩之大夫斤其先祖此失之大者也詩人之意決 乎此說雖是然亦未之盡歐氏因其說之未盡以為 我先祖非人乎人則當知患難何為使我當此亂世 意逆志是為得之此兩句當以意求之儻不以意求 不如此孟子曰説詩者不以文害解不以解害志以 道此詩固無大夫祭祀之事不得以此為說鄭氏曰 先祖獨匪人乎王者何為忍不憂恤使我不得循子 之則是先祖匪人胡寧思子乃是斥先祖也亦猶所

斤其先祖哉秋日淒淒此軍遂言貪殘之政下民困 謂先祖亦人也必不使我至於此也然則我之取禍 豈人也哉豈夫子所取之詩哉其曰先祖匪人胡寧 謂不自我先不自我後若以是求之則必以謂貽禍 觀之謂先祖乃是人我之此禍非先祖之罪也此豈 自何來哉若泥於先祖匪人則是斥其先祖也子細 於父母子孫為人而斤其先祖貼其禍於父母子孫 忍子者言先祖非人乎胡為使我至於此也其意則

大足四軍 社島

毛的係解

金ラリカと言 關誤言下民罹此亂離之病何所適歸乎冬日烈烈 有夷人行愚亦從此家語奚其適歸可以見其詩之 穀為對又彼祖矣岐有夷之行朱浮傳作彼祖矣岐 如詩言天天是極後漢蔡邕言天天是依與萩荻方有 未必不如是也沈内翰曰書之關誤有可見於他書 病如秋日淒淒然而百草俱病也亂離順矣爰其適 歸此傷離散以為亂者也家語以爰為奚詩人本意 飄風發發言幽王之虐政愈甚如冬日烈烈然而甚

火足四年全書 一 豈得為生於栗梅之下哉且如考工記言天下之大 詩言侯栗侯梅者侯維也言山有嘉卉是栗是梅也 家徒見詩以栗梅為嘉卉遂以為生於栗梅之下據 遭亂之甚也山有嘉丹侯栗侯梅此章言貪殘也諸 之時天下莫不被其禍乃云民莫不穀者此特據父 **虐飄風發發然而疾則其暴虐甚矣民莫不穀我獨** 母之家民其不得以養其父母而我獨不能蓋傷已 何害民其不得養其父母我獨何為遭此禍也坐王 毛詩集解

金月川五と言 横禍無時而善則是無有清者也滔滔大貌書曰浩 言相被泉水一則清一則濁水尚清者而今我構 者國之本也今君忍而殘虐之則清濁不可常矣幽 美草今也廢為殘賊曾莫知其所以得罪之由盖民 氏之意盖以此章連下章說詩人本義必不如是此 王失道諸侯故恣天下治亂莫能相一亦猶是也蘇 者也若泥於嘉卉而求之是以物色而求馬也梅栗 獸五脂者膏者贏者羽者鱗者正循此詩所謂嘉卉 H. CHERT S. SECTION OF THE LINE LINE LINES OF SECTION AND SECTION OF SECTION

戾天爾雅曰鵰能食草似鷹而大黑色俗呼早鳥 其字從敦若以為熟鵲之熟則無戾天之理惟 幽王之時既無綱紀故我盡瘁以仕而莫我有則是 天匪鱣也匪鮪也安能深入於淵此言難之不可逃 以逃難不可得也言我匪鶉也匪萬也安能飛至於 名鶉鳥其飛上薄雲漢此章蓋言下民欲深藏島飛 浩滔天言江漢甚大為國之綱紀固可以納衆水今 不能納天下之善者也熟注曰鵰也說文曰ఄ雕也 鷦

大定四年入

毛詩集解

金少世后人 其父母馬 北山大夫刺幽王也役使不均已勞於從事而不得養 **陟彼北山言采其把偕偕士子朝夕從事王事靡監慶** 故作此詩以告哀而已把枸祀也被赤棘也蘇氏曰 告其哀憐天下之志非以為其身也蘇氏之意蓋連 也山有蘇機此軍蓋言草木之生於山隰得其所托 上文盖亦不必如此也 大夫有退而食蘇殺甘杞捷以免於禍者作此詩以 巻二十六

我父母溥天之下莫非王土率土之演莫非王臣大夫 大臣四軍全書 一 息偃在牀或不已于行或不知叶號或慘慘劬勞或棲 方將旅力方剛經營四方或熊熊居息或畫率事國或 遲偃仰或王事鞅掌或港樂飲酒或慘慘畏咎或出入 風議或靡事不為 不均我從事獨賢四牡彭彭王事傍傍嘉我未老鮮我 於從事不得休息其他大夫未必爾北山之大夫所 李曰言幽王之時役使臣下不均北山之大夫獨勞 毛詩集解 ナ

顧其家所以不敢以家事解王事人臣之大義也若 以懷怨不得養其父母而作此詩也昔晉周處以 周處者可謂盡事君之節矣蓋處之於父母非不愛 兩全既解親事君父母安得而子乎今日是我死所 謂之曰卿有老母可以此辭也處曰忠孝之道安得 殺為朝廷所惡及使肆夏侯殿西征孫秀知其将死 也義所當然也而北山之大夫 勞於王事乃復念以 也蓋既已事君則不得顧其父母既以為國則不知

金月世居台書

其雷汝墳之婦人矣然其臣乃能歸之於天不以為 為之謂之何哉室人交編詢我則其忠臣已不如殷 矣至於北門之詩則曰室人交編趟我已馬哉天實 **裁歸裁婦人之無知乃能不以王事為怨亦可謂難** 殿其雷之婦人乃能勸其夫以義而曰振振君子歸 能勉其夫以正而曰魴魚賴尾王室如殿父母孔通

門之忠臣又不如汝墳殷其雷之婦人汝墳之婦人

不得養其父母何哉人當以謂北山之大夫不如北

たこり最上的

毛詩集解

多方也是有電 東之詩則賦役亦不均有祭祭衣服者有葛養履霜 者北山之詩則役使不均有個息在林者有不已於 勞苦而人亦將怨矣觀幽王之所為則甚不均矣大 征役之重不以為怨若有不均之心則雖征役未甚 行者以此二詩觀之則幽王之政無一得其平矣則 刺幽王也孔子曰公則說人主的有均平之心則 雅也北山大夫不當怨而怨夫子不刑之者盖所以 怨若北山之大夫則已為怨也此其所以為變風變 卷二十六 雖

三足足四軍全書 時物之變傷行役之外非有其實也王氏口陟彼北 者正與此把同鄭氏曰喻已行役不得其事此說是 也此詩所言隊被北山言采其把因見犯菜之生感 氏昭十二年有圓生之把杜元凱注曰世所謂枸 幽險為說偕偕强壯也說文曰强也因舉此詩言其 山適險而之幽也亦非也此但言往北山采祀不以 强壯士子朝夕從事無有休息王事則無不堅固矣 天下安得而忧服哉此其所以可刺也把枸祀也季 毛詩俱解

衰傷境界之削則云戲國百里戲戲靡所賜恨其有 我未老鮮我方將之意同孔氏曰作詩者言王道之 事獨以我從事而推以為賢所謂賢者又如下文嘉 危矣之意同溥大也言天下之大無非王土循率土 之演誰非王臣何獨任我也今大夫不均以勞苦之 然而慶我父母不得養之也正如所謂劉氏安晁氏 此說甚善盖節南山瞻印與此詩皆是幽王之詩 人衆而不使即以廣大言之所怨情異故設辭不同

銀少山屋 台下

之强而不失其人臣之節則曰三分天下有其二以 傍傍然不得已蓋王之意善我之未光善我之方壯 服事商其言各有當也四牡彭彭然不得休息王事 亦如言文王之地言其廣則曰三分天下有其二以 服事商言其地狹則曰由百里起蓋方言其與王業 則言其地之廣一則言其地之削當以意而逆志也 以我之力方且剛强可以經營四方而使之至於此 不在地之廣而在其德則曰由百里起方言其形勢

ころううとき

毛詩集解

事國者有偃息而在牀者有不止於行驅馳於道路 百杜元凱注以旅訓陳此旅力亦是陳力也自此以 既雖無力亦不得以為衆也旅亦訓陳左氏庭實旅 以謂衆之氣力也如秦誓所謂皆者良士指此良士 之詩曰靡有旅力書秦誓曰旅力既愆若桑柔之詩 氣力方盛乎此說不分明按此詩曰旅力方剛桑茶 下皆是言役使不均有熊熊然而居息者有盡力以 極也將壯也旅毛氏曰衆也鄭氏曰王謂此事衆之 卷二十六

多方四月白書

ころうらし から 之士大夫三公之與大夫則有勞逸之殊其勢然也 者或有出入放恣議量時政者有無事不為者其不 失容者或有惟湛逸樂而飲酒者或慘慘而畏獲罪 均如此之甚矣夫坐而論道謂之三公作而行事謂 以北山致大夫之怨也 熟敢懷怨上之心哉今也同是大夫而不均如此所 者有棲遲於家而偃仰者有或以王事之勞鞅掌而 者有或不知上有徵發呼**召者有或慘慘然而劬勞** 毛詩集解 二十

塵冥冥無思百憂不出于頭無将大車維塵雅分無思 無將大車祇自塵兮無思百憂祇自派分無將大車維 無將大車大夫悔將小人也 多方四月百月 百憂祇自重兮 故悔之也鄭氏以無將大車為取喻以無思百憂為 李曰此詩言幽王之時小人在朝而君子與之共事 非取喻當從王蘇之說鄭氏曰百憂者衆小事之憂 也此說不甚明白大車蘇氏謂牛車也言不可將扶

一大足四年全書 出於光明而致幽暗也重累也王氏曰車君子之所 将大車之類也亦不必如此說盖王氏皆以三章為 子乘而節之使退聽而已斯可也乃下而将之則是 乘而非君子之所將将之則祇自塵而已小人者君 則禍及之矣亦猶小人不可與之共事尚與之共事 大車的将大車則塵污之矣不可思百憂的思百憂 取喻其說則是而其為說似未可行也 則難及其身不可逃也下二章皆此意煩光也言不 毛詩集解 ニナニ

莫念我獨兮我事孔庶心之憂矣憚我不暇念彼共人 懷歸畏此罪智昔我往矣日月方除曷云其還歲幸云 **滕滕懷顧豈不懷歸畏此譴怒昔我往矣日月方與曷** 離寒暑心之憂矣其毒大苦念彼共人涕零如雨豈不 明明上天照臨下土我征祖西至于光野二月初吉載 小明大夫悔仕於亂世也 伊威念彼共人與言出宿豈不懷歸畏此反覆嗟爾君 云其還政事愈感歲幸云莫采蕭獲放心之憂矣自治 金ラロ 卷二十

嗟爾君子無恒安息靖共爾位好是正直神之聽之介 爾景福 子無恒安處靖共爾位正直是與神之聽之式穀以女 其政事以至於亂蓋鄭氏徒見大明者文王之詩也 李曰鄭氏以為名篇曰小明者言坐王日小其明損 **幽小其明然以詩求之詩之所謂明明上天但言上** 故以謂文王能大其明幽王之時謂之小明故以謂 天之明也上天之明豈有小大邪在小雅則謂之 毛詩集解

た己り草在野

金りて 小大之字故其說至於如是也明明上天王氏言幽 亦以政教為小皆不求其所以名篇之意而泥之於 也大夫仕於亂世而乃勞苦是何上天不見察邪我 然所謂明明上天照臨下土言天之明無所不察今 王作民主而恃天道無明德以察治故世亂此說不 小旻則以為所刺列於十月之交雨無正為小小宛 征之往於西方至於遠荒之地乃以二月朔日始行 明在大雅則謂之大明鄭氏於小旻小宛皆求其義 卷二十六

察那鄭氏乃以大夫為牧伯之大夫然小明之大夫 思得共德之人而事也不如陳少南以共人為大夫 大夫其行役也亦有事繁多者何獨牧伯邪心之憂 收伯部領一州大率二百一十國其事繁多然是時 初吉言其人也以行役之遠所歷之久天胡為不見 矣其毒大苦言其思之大苦也念彼共人蘇氏以為 乃周之大夫也何以知其為收伯之大夫邪乳氏云 今乃更歷寒暑尚未得歸至于光野言其遠也二月

一足已可華全書 一

毛詩集解

一十四

金ラロカノー 豈不懷歸又恐入於罪網也方其未仕不仕可也既 仕則欲歸而不得蓋仕於亂世者多如此昔我往矣 之友言大夫始仕之時必有友人諫之而大夫不聽 間也楊龜山破其說鄭氏謂四月陽極而陰生故陽有 之十一月為正則以夏之十月為除方除則九月之 之間出使以周二月至于光野日月方除者周以夏 日月方除王氏以為幽王之大夫以周之九月十 既仕而復悔之故念其昔日之友而涕零如雨也我

懷歸畏取怒於當時也昔我往矣日月方與與煖也 我不復有暇也念彼昔者之友朦胧然懷顧之非不 時而得歸子今則歲又莫爾念我獨兮亦猶我從事 於爾雅也告我往而至於光野以四月之時自謂何 嚴莫而還不足以為久也當從鄭氏之說盖其說本 獨賢也我事孔庶亦猶或靡事不為也心之憂矣勞 說謂周以夏之十一月為正則十月為除歲其而往 除之義也猶十月陰極而謂之陽月也若從王氏之

足已日華在書

毛詩集解

二十五

金牙口匠 罪也嗟爾君子無常安處鄭氏謂其友未仕者人之 居無常安之處謂當安安而能遷此說不然蘇氏以 鄭氏以謂夜臥而起宿於外憂不能宿於內是也豈 矣我仕亂世而自遺威也念彼昔日文友與言出宿 謂四月之時也四月之時方往謂何時而得歸乎而 不懷歸畏此反覆及覆不常之意非不懷歸畏得其 為人勞於外又有久安處於內者矣言我憂勞於外 政事愈感今歲丰云莫正采蕭獲放之時也心之憂 1:17

处定四車全書 鍾喈喈淮水湝浩憂心且悲淑人君子其德不回鼓鍾 鼓鍾將將淮水湯湯憂心且傷淑人君子懷允不忘鼓 鼓鍾刺幽王也 伐藝淮有三洲憂心且妯淑人君子其德不猶鼓鐘欽 内者故出是言也 正直之人然後神之聽之用以福汝爾尚貪於安處 在内之君子無常安之處也靖共爾位所與之人皆 不靖共爾位則神從禍爾矣以見憂勢者在外告於 毛詩集解

欽鼓瑟鼓琴笙磬同音以雅以南以篇不僭 徐夷並與盖自成王時徐戎及淮夷已皆不為問臣 李曰鼓鐘之詩諸家多以為作樂於淮水之上歐陽 害幽王不恤作樂不止故詩人言憂心且傷作詩之 故於此詩之義遂闕而不言惟張横渠以為淮水為 遠至淮上而作樂不知此詩安得為刺幽王也書曰 公以為不然考詩書史記皆無幽王東処之事何由 傷之也此說得之淮水湯湯諸家多以湯湯為溢 とこれ 火定四車全書 一 樂所以為樂而人乃以為憂者是非所樂而樂之淑 方割則湯湯之濫無疑也浩治亦湯湯也三洲言水 之浸及於三洲也此言泛濫之狀伐藝大皷也憂心 且她她憂也此作詩之人所以憂之也方無王之作 以張横渠之說求之湯湯乃是泛濫書曰湯湯洪水 至於滑階則不溢矣淮水有洲則又勝於沿沿矣若 之未當忘也古者未當不為樂則與民同樂今民以 人君子懷允不忘言今我思古之善人君子念而信 毛持條解 二十七

皆相和以至於二雅二南播之以篇皆不僭差蘇氏 為憂而王乃自以為樂其可乎淑人君子其德不回 沈存中皆以為二南鄭氏則以為四夷之樂誤矣書 言其德不若是也至於末章則言所以為樂非不美 鍾所謂金奏也既鼓鍾欽欽於是乃鼓瑟與琴笙磬 言古之善人君子其德不如是之回邪也其德不猶 也持以其所作非其時爾蘇黃門以為将作樂則鼓 日洚水警予洚水者洪水也以堯之聖德可謂至矣

金り

世上とこ

を二十六

大己日年全書 毛詩集解 憂也唐太宗當曰夫聲之所感皆因人之哀樂将亡 憂其憂樂民之樂者民亦樂其樂民方以為憂而幽 曷為作樂哉方民當母墊之時幾不聊生而幽王乃 王且以為樂斯民聞鐘皷且處頗而相告曰吾王之 安然作樂是可忍也熟不可忍也憂民之憂者民亦 遠則其警戒之心當何如邪縱不能懷警戒之心則 好樂甚夫何使我至於此極也此樂也祇其所以為 遭洪水猶有警戒之心為幽王者較之堯帝固甚相 ニナハ

金ラセルノニ 之政其民困故聞以悲今玉樹後庭花伴侣之曲尚 存為公奏之知必不悲魏徵曰樂在人和不在音 後庭花伴侣之曲非不愁也然作於太宗 以此見樂之作也不擊於聲音之間惟繁 一雅之南非不美也然作於幽王之時

定四庫

經部 毛詩李黄集解卷二七

通政使司副使臣英明亲覆勘 詳校官監察御史臣左 周

校對官中書臣朱 總校官編修臣王熊緒 腾绿監生臣吳 絟 炘

改包四年全事 字或母或將祝祭干初犯事孔明先祖是皇神保是饗 亡祭祀不饗故君子思古馬 刺幽王也政順賦重四來多荒機健降喪民卒流 者炎言抽其來自昔何為我就泰稷我泰與與我 我倉匠盈我庚維 景福濟濟路路黎爾十半以往然曾或到或 毛訶原鄉 億以為酒食以享以祀以妥 李樗黃植 拱

西卒 安式禮莫愆工祝致告祖贵孝孫茲芬孝祀神常飲食 遲諸父兄弟備言燕私樂具入奏以緩後禄爾稅既 萬時億禮儀既備鍾鼓既戒孝孫祖位工 卒度笑語卒獲神你是格報以介福萬壽依昨我孔熯 婚或死君婦莫其為豆孔底為震為客獻騎交錯禮 孝孫有慶報以介福萬壽無疆執髮踏踏為俎孔 刍 卜爾百福 止皇尸截起鼓鍾送尸神你幸歸諸宰君婦發徹 如幾如式既齊既殺既匡既粉永楊爾 衴 致告 碩或 极時 神 섍 上

惠乳時維其盡之子子孫孫勿替引之 莫怨具慶既醉既飽小大稽首神嗜飲食使居壽考孔 てこう シーハナラ 饗此言其序也惟其政煩賦重傷民之財奪民之力 李曰此詩言幽王政令之煩賦斂之重至於田來多 荒而又 天降機懂使民皆流散逃亡故祭祀神弗敢 民不得從事於田畝此田菜所以為多荒田菜多荒 則是機僅之災降喪民無所食逐流亡散徒於四方 此民所以流亡民既流亡則其祭祀而神亦不歆饗 毛詩族斜

多玩四库全書 哉故祭祀不饗也來者廢田也廢田謂之多荒者周 貌抽除也鄭氏云炎蒺藜也炎言楚楚棘言抽互辭 官遂人田百畝菜五十畝菜者必欲治之今菜不治 古者先成民而後致力於神人民者鬼神之所依也 亦知炎之抽矣此章言民之去草及夷益崇之而百 也蓋言茨之楚楚則亦知棘之楚楚矣言辣抽者 遂致於多荒此詩所以刺之也楚楚者茨楚楚茨棘 今民人流亡 則是神失其依矣雖豊其染盛亦何 豧

去草者果何為哉所以藝泰稷也惟其既去草以藝 意如信南山甫田大田全篇盡是思古人之詩全無 毅以茂百穀以茂則可以真之倉原以供祭祀也王 年之祥而倉灰則又充益露積口灰國語云野有灰 泰稷故其泰則與與其稷則翼其豐茂盛大以致豐 之意以為傷今而作然觀楚炎一篇乃是思古人之 氏則以為傷今之意言楚楚者获則获生衆也王氏 句及於刺幽王楚英之詩亦然也然古人之所以

欠小り時心時

Ų

毛討係解

金月日月石三 年詩大抵相類豐年多泰多称亦有高原萬億及种 有以安之又有以勘之後能助其大福也此章於豊 也以為酒食享祀於神祇又迎尸於室以拜安之 福是也豊年全篇只是楚我一章自可以你見也古 以事以犯以妥以侑是也降福犯皆即 為 設食以進為尸嫌不飽祝以主人之解作勸之惟其 注云庾露積禾也於倉言益於庾言億亦是益幹 酒為禮無丹祖如以治百禮即此所謂以為酒 JE. 詩以介景 食

飲定四庫全書 謂其上下皆有嘉徳而無遠心也所謂馨香無幾愚 不然矣自此以下皆言祭祀之事濟濟蹌蹌則言其 為酒食以饗祀於神此古之時如此至幽王之時則 也謂其三時不害為時和歲豊則見倉廩之實可以 三時不害而民和年豐也奉酒體以告曰嘉栗肯酒 蠡也謂其備脯成有也奉盛以告曰潔粱豐盛謂 謂民力之普存也謂其畜之碩大善滋也謂其不疾族 者先成民而後致力於神故奉牲以告曰博碩肥腯 毛詩集解

有りい 安而饗之報以大福使孝子饗其慶至於萬年無躬 治矣乳明下治也惟 在此或在彼故使祝求之於門內之旁其祀事 進之者祝祭於移的門內也孝子不知神之所 其皮者有煮熟之者有肆其骨體於祖者有奉將 内 謂至矣不可以有加矣故以之共然當之祭有 儀之構潔爾牛羊則言其姓姓之構濟濟路路 備禮潔爾牛羊則外備物內備禮外備物其誠 1:11 なニ 其祀事孔明故先祖是大神 + ĸ 在或 解 刖 可 剢 必 刖 バス

次色日草心時 爨之北是二爨者也時時有容也组者從獻之祖也 言清靜而敬至也凡祭祀后夫人主共遵豆其遵豆 則甚庶然所設之物亦猶在於祭祀而祭祀之事以 方其既獻酒矣於是以婚矣而置之於俎其為俎也 火易熟者遠之故肝矣而肉婚也君婦謂后也莫莫 也執爨饔爨糜爨也餐爨在門東南北上糜爨在發 乳氏云烯者火燒之名炙者遠火之稱以難熟者近 則博大其组之中又有燔炙二者燔婚肉也炙炙肝也 毛韵族解

金少口居石事 將為燕飲故曰為賓為客其大待客也始主人酌質 為獻賓既酢主人主人必自飲酌質曰虧自旅而爵 其禮交錯如此而禮儀終合於法度其笑語至於卒 不亂宜乎神安而饗之報以大福萬壽至於依酢也 壽無疆又言神保是格報以介福萬壽依能其辭重 酢報也焚於詩言神保是饗孝孫有慶報以介福萬 福之多也熯毛氏以為敬不如蘇氏以為竭言我行 被如此亦猶天保之詩言福禄無不重被盖以見受

幾期也式法也其福所以如此之多也則奉其祭祀 告於主人使受嘏既而以嘏之物往予主人孝孫也 齊整稷疾誠正慎固錫爾中和之福至於時萬時億 之多也禮儀既備此章則又言送神之意上章則言 所以予汝百種之福其來如有期矣多少如有法矣 爾之孝孫主人有茲芬馨香之祀故思神特飲食今 禮也工者善其事曰工蓋善於為祝故告於主人也 禮以筋力既竭然其禮樂未嘗或愆此以見周旋中

飲定四車全書 一元前集解

豆皆不遲祭祀畢歸賓客之俎其諸父兄弟留之以 安然而歸於天也尸已出矣而諸军及君婦徹去祖 之聲既告戒矣擊鍾皷以告戒言祭罪也孝孫往位 備熊便所以盡親親之義也樂具入奏此章則言燕 堂下西面位祝於是致孝孫之意又從而告之以 祭祀之意今此則言送神也言禮儀既畢備矣雞皷 兄第也其燕兄第而具樂入奏以安後禄鄭氏謂後 將歸也神既皆醉而尸則起乃鳴鍾皷而送尸以其 をニト 神

長行而勿替也楚茨五章皆以祭祀之事惟一章 獨言戴黍稷以供祭祀蓋一章言其大縣二章而下 則 神鳴其飲食使君得壽考之福以君能順其禮甚得 其時至矣盡矣不可以有加矣惟願君之子孫世世 飽於德其小大長幼皆稽首而相慶以謂今日之祭 行矣其同姓之人莫有怨者言皆相慶既醉於酒又 日之福禄不如蘇氏以謂祭之餘福也爾之殺則將 析而言之詩之體如此多矣

灰色四草白馬

-

毛詩張斜

×

享于祖考執其鸞刀以啓其毛取其血督是然是享茲 菹 霑既足生我百殼疆場翼翼黍稷或或自然之档以為 金片 酒食界我尸賓壽考萬年中田有處疆場有瓜是剥是 東其畝上天同雲雨雪雰雰益之以康霖既優既渥既 信被南山維禹甸之昀昀原照貿緣田之我疆我理南 信南山刺幽王也不能修成王之紫雅理天下以奉禹 功故君子思古馬 獻之皇祖曾孫壽考受天之枯祭以清酒從以蘇 压压 ノニー 巻二十七 The second second 牡

一茨芬芬犯事乳明先祖是皇報以介福萬壽無疆 是也見於問官則如大司徒井牧田野是也至於鄉 下見於詩見於周官見於詩則如信南山前田大 李曰此言成王之時能疆理天下以繼禹功幽王之 時則不能繼其祖之業所以思古而傷令不然也益 可坐而定惟成王之為改獨以經界為本故疆理天 平是故暴君污吏必慢其經界經界既正分田制 子曰仁政必自經界始經界不正井地不均穀禄 ١Đ 禄 不

大三日日 小村

毛情係解

金月四月 全書 南山而已哉而曰信被南山維西甸之者孔氏云作 下此說是也雜英詩亦曰英英深山維馬向之馬所 者指一處而表之其意通及天下也故序言疆理天 之法也夫禹平水土之後其功見於天下者豈獨 向豈一梁山而已哉蓋方言辨之地 故言梁山謂 被南山向丘甸也信乎南山之地乃禹所以致九 王之時田菜既多荒矣又豈能疆理天下哉是所謂 暴君污吏慢其經界者也此信南山詩所以作也信 甸 بخ

とこりる とき 傅言少康之在處思有田一成有眾一旅則是十里 同 井 運言大道既隱繼而曰以立田里則是三王之初而 以為立甸之法已見於夏后氏之世何也孔氏云禮 向方八里六十四井也然井田之法實見於周而乃 信南山者亦如是也四并為邑四邑為五四五為向 有井甸田里之法也論語說馬盡力手清油與匠人 問有繪專達於川同也是五旬之法禹之所為 間 有满成間有油同也益稷濟吠濟距川與匠人 毛持条解

都定四月全重 夏商稍稍革治至周而大備蘇氏之說與孔氏合 為成非周之賦法也而老蘇亦以為并田之與非 而 盆子曰夏后氏五十而貢殷人七十而助周人百 於唐虡之世則周之世無以成井田唐虡啓之以至 於夏后氏之時也惟禹成扛甸之法而成王能 剞 之功故的的原照自孫旧之曾孫指成王我强言書 之法何以能行什一之法也故於丘甸之法已見 徹其實皆什一也以貢助微皆本於什一若非 外級 觀 始 禹 九 畝

雪又盆之以小雨說文曰霡霂小雨也既雨雪矣又 縱或横皆順其土之宜上天同雲此章又言天之潤 宜泰之類是也南東其畝言或東或南順田故之宜 詩曰我疆我理南東其畝所謂南東其畝者亦猶或 所謂四丘為甸是也分其土宜則如周官所謂其殼 也左傅成公二年曰先王疆理天下物土之宜故奉 其疆界也我里言分其土宜也盡其疆界則如問官 如此在上天同起雲故雨雪紛紛然而積天既下

欽定四庫全書

1

毛討張解

矣而既優既渥又以為雪既霑既足又以為雪此 雨之既已饒渥既已霑潤陸農師曰三農之事雪 不當無分别也第一章所言地利也二章所言天時 欲盛而編故於雪言雰雰雨欲小而 百穀也其疆場之上翼翼然讓畔黍稷則或或然而 也地既利矣天既時矣此所以為豐年之報而生我 杜 亦云潤物 雨雪雰雰言雪之盛也益以霖霖言雨之小也 細無聲亦是小雨也農師之言既得之 おニナ 七 雅故於雨言 源 老 則

農時則出而在廬秋冬則去春夏在爐所以暫居於 獲壽考之報也中田有廬古者宅在都邑田於外 於黍稷乎至幽王之時田菜多荒黍稷尚且不熟 時非獨泰稷之茂而疆場有瓜則萬物皆以成熟況 瓜獻之於皇祖故成王壽考受天之福也夫成王之 稅天子剥削淹漬以為祖貴四時之異物於是以此 此也疆場之上則種瓜馬此見地無遺利矣又入其 茂盛成王則飲而收之為酒食以祭祀以燕賓客而 野

次包四市全書 一一

毛詩集解

一金グロアイコモ 刀以開其毛取其血幣以燒之血以告殺幣以升臭 降神然後迎牲以獻祖考謂之蘇牡者周人尚亦 於瓜者乎但以疆場有瓜求之於是以見古今之異 全之物貴純之道也楚國語亦曰毛以示物執其意 是中節也以啓其毛取其血情郊特牲口血毛告 也驚刀刀下有鈴也刀下有鈴則其聲中節郊特 也清謂玄酒也酒鬱鬯五齊三酒也祭禮先以鬱鬯 云割刀之用而鷹刀之貴貴其義也聲和而後斷也 怒ニナと 幽 牲 故

欠八日豆 小吉 骨脂膏也燒其骨膏以升其臭飢蓋以此脂膏合之 從而皇大之故報以大福萬壽無疆也楚次之詩先 秦稷置之蕭乃以火燒之合其馨看之氣是升臭也 惟其祭祀既盡其誠故於此而進獻之所以獻之物 此信南山先既言疆揚翼翼黍稷或或於是言祭祀 言祭祀之事其後則繼之以神皆飲食使君壽考今 言我泰與與我稷罪罪我倉既盈我庾維億自是乃 則芬芬茲茲然而香遠問祀事於是乎甚明先祖 毛詩集解

不同其意一也是皆言福禄之報本於祭祀而祭祀 於倉廩之盈原隰之治田廬之修雨雪之時而後 寧壽考之樂此天下之至美極治之際也而其本 甫田大田其始皆言曾孫物農之道甚為其後則言 之事其終亦言先祖是皇報以介福萬壽無疆以至 及於祭祀禮樂之事也蓋衣食不足於下則禮樂不 又本於黍稷也張文潛曰受莫大之福而其君有安 祭祀之事其終口報以景稱萬壽無疆是數詩幹 乃 鲱

金坑四月全書

卷二十1

倬 とこのき とき 甫 甫 適南畝或去或籽黍稷薿薿似介攸止無我是士以我 田之什 被南田歲取十千我取其陳食我農人自古有 田 序如此也此言盡矣 有 衣食豊而禮樂備禮樂備而和平則和平則而人君 **備於上禮樂廢則亂隨之而起惟田** 刺 福禄壽考之盛此詩人深探其本要其終而言之 幽王也君子傷今而思古馬 計訓傳第二十 7 毛持孫鲜 1) 事備則衣食豐 雅 + 纤

箱泰稷稻梁農夫之慶報以介福萬壽無疆 來止以其婦子儘彼南畝田畯至喜粮其左右曾其肯 如茨如梁智孫之庾如城如京乃求千斯倉乃求萬斯 否未易長故終善且有智務不然農夫克敏智祭之稼 鼓以御田 齊明與我樣羊以社以方我田既臧農夫之慶琴瑟擊 李日此詩所以為君子傷今而思古則是此詩之中 王皆不能然也如曰我取其陳食我農人刺 祖以祈甘雨以介我稷黍以穀我士女曾孫

副是四月全書

多田畝之賦既言十千則其他可知也不如鄭氏之 鄭氏則以謂一成之數毛氏之意謂當言旧故之賦 彼甫田正猶所謂信彼南山也十千毛氏曰言多也 言大夫也不如毛氏甫田謂天下田也言明乎彼大 之世民人因乏必不能然也如不易長敢終善且有 古之時天下之田則一歲而取十千之數也其口停 詩一篇之中皆如是也倬明也甫大也鄭氏曰甫之 刺幽王之世田菜多荒必不能然也以此觀之則此

次已日月 八月

毛詩集解

蛋为口周看意 成之内歲之所取者八千畝也安得有十千也故乳 言為有依據九夫為井井稅一夫其田百畝井十為 為步步百為敢敢百為夫夫三為屋屋三為井井方 通通統十夫其田干敵通十為成成方十里成統百 是為八十畝餘二十畝以為廬舍信如此說則是 夫其田萬畝此所謂十千也投漢書食貨志曰六尺 氏破其說以為井九百畝其中為公田則中央百畝 里是為九夫八家共之各授私田百畝公田十畝

皆食陳矣鄭氏曰倉康有餘民得除貴取食之所以 爐舍則家別二畝半亦入私矣家别私有百二畝半 百畝皆屬公矣何得復以二十畝為廬舍也言同養 毛氏口尊者食新農夫食陳如此說則是古之農者 家取十畝各自治之安得謂之同養也若二十畝為 何得謂八家皆私百畝也乳氏此說甚善我取其陳 公田是八家共理公事何得家分十畝自治之也若 共為公田不得家取十畝也又言八家皆私百畝則

火三日巨八十五 國

毛討係解

五五

金好正月行書 故我今適南畝視其耘籽而黍稷至於義疑然而感 乏安得陳陳故我取其陳聚以食農人乃自古豊年 善漢志曰太倉之栗陳陳相因若無道之世倉康困 甚相遠惟蘇氏曰一成之田而歲取萬放以為國用 之法也惟我取其陳食我農人為自古有豐年之法 **耘除草也科冀本也收介收止毛氏曰治田得殼俊** 又將取其陳積以時發做以助農夫之困乏此說為 約官之蓄滞亦使民愛存新殼此與毛氏之說亦不 たニナン

之之大器也鄭氏之說盖本於此然不如蘇氏之說 少學之異者于天子學于大學命曰造士行同能偶 鄉學于库序库序之異者移國學于少學諸侯歲貢 學學先聖禮樂而知朝廷君臣之禮其有秀異者移 六甲五方書計之事始知室家長幼之節十五入大 邑冬民既入則是餘子亦在於序室八歲入小學學 則别之以射然後爵命馬此先王制士處民富而教 士以進漢食貨志曰春令民非出在野冬則非入於

次已四年 全等

毛許原解

金グに万人言 實器日齊則以此齊為齊字讀者王氏曰以我齊明 機羊為文則當從毛氏之說以為實器曰齊也盖言 者如漢龍力田之類敏此說為害以我齊明毛氏曰 精 内致其志也則以齊為齊字讀反告按禮記日齊者 進其髦俊庶幾有年以遵古之成法所謂進其髭俊 曰是以親適南於而視其耘耔助其勤力止其怠惰 以我明潔之齊與夫純色之羊以祭社稷以祭四方 明之志也則齊明亦可以為齊戒然齊明二字對 巻ニナン

九巴日戶在時 盖 來自孫以婦子隨彼南畝而勞其來此盖子所謂省 之所以求甘雨以助我黍稷以養我士女也殼養也 始 戒之禮也我田既職言我田既善矣故於益冬之日 其農夫之人各受其賜慶賜也既而於益春既郊 鼓以樂田暖即此是矣智孫來止王氏日勞來 耕 **岡終則有始也周官曰凡祈年於田祖吹脈雅擊** 報之也蓋上章既言置年之事故此章則修其告 則又擊其琴瑟與皷以迎田祖先裔之神 毛詩作解 itis 1-) 祭 而

ナ

於深宮而知稼穑之艱難田畯安得不奉成王之意 敏也如此成王以萬乘之尊而親臨於吠故之中生 稼禄未也謂有葉者也庾露積穀也炎積也梁車梁 乎田唆既已如此民安得不春田唆之意乎留祭之 禾福竟敢中終善且有於是成王不怒其農夫之克 左右曾其首否民知成王之勤於農事則盡力於治 耕是也田畯至喜於是田畯之官至而喜之據却 也抵水中之高地也京高丘也言成王所得之稼則 イー書 钦定四軍全書! 壽無有疆竟而已 受其慶其將何以報之哉惟報之以介福祝之以萬 稻梁言其無所不有也故於孟冬之日農夫之人各 千倉以處之求萬車以載之新車也既有黍稷又有 米智孫之稼如決如梁此近者納怨也智孫之原如 其多如此鄭氏曰上古之稅法近者納經遠者納栗 抵如京此遠者納栗米也惟其未之多如此故乃求 如屋茨如車梁所得之庾則如水中之抵如高丘言 上 詩張解 <u>ナ</u>

炎火有渰姜姜與雨祁祁 孫來止以其婦子儘彼南畝田畯至喜來方禮祀以 獲稱此有不斂稱被有遺東此有滞穗伊寡婦之利智 不莠去其與騰及其蟊賊無害我田 黑與其泰稷以享以祀以介景福 百穀既庭且碩曾孫是若既方既早既堅既好不 田多稼既種既戒既備乃事以我覃都俶載南畝 田剌幽王也言於寡不能自存馬 卷ニナセ 雨我公田遂及我私彼有不 稺田 祖有神東界 掂

征澤梁無禁罪人不擊此周文王之仁政也然必先 矣觀文王之仁政耕者九一仕者世禄屬市識而不 施 治 李曰論人君之盛治必以鰥寡孤獨莫不得其所為 以鰥寡狐獨各得其所然後可以見文王之世於 父曰狐此四者天下之窮民而無告者也文王發政 而無妻曰解老而無夫日寡老而無子曰獨幼而無 而有一夫不得其所不足以為盛治也孟子曰老 仁必先斯四者則天下可使無窮民如堯舜之時 斯

飲之四草全書 一

毛詩集解

-

九

事於南畝於是百穀之生既庭而直又碩而大凡民 農計耦耕事修未耜具田器此之謂既種既戒惟其 當 為盛不可以有加矣成王遵文王之法故鰥寡能以 既種既戒則田事無不備矣然後以我之利器始 所以作也大田多稼惟大田然後多稼既是大田 自存至幽王之時則文王之道於是乎廢大田之詩 所以勤於農功如是者則以自孫是若故也言民 預備其種戒田器記季冬之月令告民出五種命 アイニョ 則 有

成實也則雖成實而未堅也既而又堅又好粮童祭 故乳子曰惡莠之亂苗而不根不莠非其種也除而 皆順曾孫之意王氏以謂不遠農時毛氏之意亦然! 日食心曰螟食葉曰騰食根曰蟊食節曰賊其說本 去之則嘉穀於是乎長矣去其螟螣及其蟊賊毛氏 也莠似苗也國語注云莠似稷而無實所以亂苗也 之生也方房也以其爭甲盡生房矣盡成實矣早者 不如蘇氏以為順成王之所欲也既方既卓言百穀

次足四重全

毛詩集解

手

毎月日月月日 當是時也無螟滕之害故民以謂田祖之神其有靈 於爾雅說文以謂吏胥犯法則為盡謂抵取民財則 於上宜其螟螣蟊賊不生也無害我田稱稱幼核也 言禾之小者與騰之害幼稼為甚故曰無害我田禄 治猶能使蝗不入境況王者之治人事既盡則天應 日賊去與嚴蟊賊皆本於王者之政自古賢太守之 如此持付炎火之中使自消亡也其實非田祖付之 炎火之中民見其無蝗蟲之害逐歸功於田祖至唐

次已四年亡号! 毛詩俱解 此以為說其實與此詩異也古者無蝗蟲之災以此 明皇之時天下大旱蝗姚崇為相遂遣捕蝗使乃引 之功歸於田祖言田祖東付炎火之中明皇既遭蝗 蟲為宰相者宜勤其修德乃區區於捕蝗是從事於 末也昧詩人之意遂為姚元崇之捕蝗況託儒者為 毛氏曰雲與貌惟其雲萋萋故雨祁祁王氏曰雲欲 姦乎有渰婆養陸農師曰渰雨雲傳曰雨雲水氣也 盛盛則雨雨欲徐徐則入土也雨我公田逐及我私 主

鱼品 樂也天之降雨既欲其先公後私則知其趙事於南 我公田遂及我私上之人又愛其民也則曰嚴發丽 稱禾此處有不收斂之稱東又彼處有遺餘之東把 敢先公後私可知也彼有不獲稱彼處有不獲刈之 私終三十里君民之情相愛如此安得不享豊年之 此處有滞漏之未聽蓋田主不暇收取所以遺寡婦 但以民之爱其上故欲其先公田而後私也故曰雨 此見民愛上心也惟天之降雨豈有先公而後 世月有量 **&二十** 私

火之可戶戶 畝 之委積以養老狐王制云鰥寡狐獨天民之弱而無 所以省飲也盆子曰春省耕而補不足秋省飲而 穗此所以各得其所也曾孫來止以其婦子 隨被南 自存也左傳曰或取一東秆馬與周禮地官云門 告者也皆有常鎮在上則有常鎮在下則有遺東滞 之利也序言矜寡不能以自存惟其如此矜寡所以 不給省耕飲二事皆當及其時古人所謂刈禾如寇 田畯至喜甫田亦有此語所以省耕也此詩所言 毛詩集解 1 鯣 助

瞻被洛矣刺幽王也思古明王能爵命諸侯賞善罰惡 别也 氏以謂解黑但言其晷也王氏則謂來方裡祀則 幣各放其器之色惟其享祀如此故能助萬福馬蘇 方禮祀成王之來也四方各致其禮祀與其辟色之 盗之至故人君於秋成之時而省飲欲其及時也來 牛及其黍稷各隨其方而祀之周禮大宗伯皆有 四方而已以事以祀以徧於羣神亦不必如此 姓 禋

金月正月子言

馬 瞻彼洛矣維水泱泱君子至止福禄如次蘇幹有奭以 作 六師瞻被洛矣維水泱泱君子至止鄰琫有致君子

萬年保其家室瞻彼洛矣維水泱泱君子至止福 同君子萬年保其家邦 稼 旣

李曰幽王之時不能正其賞罰以勸懲諸 侯故君子

思古之明王能如此則刺當時之不能也詩之所言 只言爵命諸侯初無賞罰之事而序乃以謂賞善罰

火色四草金

毛詩集解

重

金片 惡者此特其文勢相連爾如大田之詩言寡婦而序 矣鄭氏以 詩者便以為於寡詩人之言類如此者多矣洛水有 宗周者諸侯所會之地而東都者宣王亦會諸侯於 浒 妎 此 其 亦是諸侯所會之地此二說所以皆通也至其義 謂 謂周公初基作新大邑于東國洛是也故瞻彼洛 河 在宗周其一在東都在宗周 西口雅州其浸渭洛是也在東都則書康語 謂在宗周王氏以謂在東都此說皆通盖 巻ニナン 則周官職方氏

以及人間

欠三日戶八三 蒙其益此皆就洛水求義不如陳少南之說為簡徑 成嘉穀王氏則曰決決通中之水也水甚利萬物然 非適中則或為害而蘇氏之說尤為支離其說日洛 之朝指洛水所在之處以見所經歷之地也君子至 少南曰漆沮之水流入洛宗周在馬盖此只言諸 之水泱泱而無窮使洛愛其水無所澤萬物於洛無 則不然鄭氏曰我視彼洛水雅溉以時其澤浸潤以 加也而物失其利洛惟不爱其水故無損於洛而物 毛討俱解 西 侯

時有征伐之事天子以其賢任為軍将使代鄉士將 諸侯世子除三年之喪服士服而來未過爵命之時 止福禄如災言君子之至於此也王則錫之以福 六軍而出蘇給者茅道染也茅道蘇給聲也蘇給祭 其多如蓋室之茨也蘇幹有爽以作六師鄭氏則以 服之鄰合章為之其服爵弁服紂衣燻裳也而王氏 則謂使服就韋之幹而作六師則以討有罪故也使 君子討有罪則所謂能罰惡也周官凡有兵事幸并 禄

金分正屆全書

卷二十七

欠三日臣八書 可 **韩齡之服為征伐之服則此下文曰以作六師而** 服先儒以為左傅所謂蘇幸之跗注是也惟古人 Ŋ 鞘也珠上飾桓公二年藻率解藉杜預注以謂 天子則使之服蘇翰之服以作六師則其寵任之志 上 以為祭服不如王氏之說為長夫諸侯之朝於天子 鞘 文曰蘇翰有爽則其為征伐之服無疑矣毛鄭 知矣頭亦就也解容刀鄰也古之言斟猶今之言 上師籍下師與此不同要之此二物者皆是佩 毛詩張解 主五 鞹 佩 贝门

金好以母母書 裳裳者華刺鄉王也古之仕者世禄小人在位則說 或為惡故福禄既同亦並受其福之意王氏之說 意也 共之也王氏則曰惟能賞善則善者衆善者衆則莫 可以萬年保其家室也福禄既同蘇氏曰言與諸 王者所以錫諸侯也王者既以錫諸侯諸侯得事則 刀鞘之飾而其上下則不可得而知也輕棒有致 如蘇氏之說為明白君子萬年保其家邦亦上章之 を二十七 倭 此 不

汉已四草在等-之右之右之君子有之維其有之是以似之 之子乘其四駱乘其四駱六響沃若左之左之君子宜 東東者華其葉滑兮我觀之子我心寫兮我心寫今是 矣維其有章矣是以有慶矣裳裳者華或黃或白我親 以有譽處兮裳裳者華芸其黄矣我親之子維其有章 並進弃賢者之類絕功臣之世馬 李曰昔者文王之治岐也仕者世禄則知古者世官 為可信也然武王數約之罪則曰官人以世春秋書 毛詩集解

堂也滑葉盛貌鄭氏曰華堂堂於上喻君也葉滑然 獲罪折異曰权向社稷之衛將十世有之以勸能者 為民害也此世禄世官之所以不 同也楚令尹子文 古者重功臣之世如此而幽王弃之可乎棠裳猶堂 之子箴尹克黄使於齊王思子文之治楚國也日子 文無後何以勸善使復其所改命曰生晉叔向之弟 指其功臣而言之世官則無賢不均皆以官寵之恐 尹氏卒識世卿者也蓋古者世禄不世官世禄者但 卷二十七

賢者之昌盛如此故我見此子則於然然有文以接 之有文以接之是以有慶賜也或黃或白既以黃為 子則傾寫其心以與之傾寫其心以與之是以其國 有美聚而得其安處矣芸黃亦所以喻賢者之類惟 於下喻臣也按此詩只說賢者之類而乃以華喻君 **输賢者之旨處則白者乃其見弃也惟賢者不當見** 其說為不類此但言賢者之類昌盛如此故我見此 弃故我見之則有四馬六響之文沃然而美左之右

次包四年全告

毛討係解

鷹其領君子樂胥萬邦之 屏之屏之翰百辟為憲不能 交交桑扈有為其羽君子樂胥受天之社交交祭扈有 金グモアと言 不難受福不那兕觥其解古酒思柔被交匪敖萬福來 桑扈刺幽王也君臣上下動無禮文馬 之此末章則言賢者之德以左之則無所不宜以右 幽王乃以讒言而弃之可乎 也惟其如此則似之續之永永而不絕乃其宜也今 之則又君子之所當有蓋以見置之左右無所不可 をニト

求 其本情故也此說為善盖詩之辭雖善而以音雅 陳成王德之善行露汝墳之篇皆述約時德之惡汝 墳為王者之風楚茨為刺過之雅太師晚其作意知 德安知其為刺詩乎故李祭酒曰楚災大田之什並 是陳古以刺今也然以此詩觀之徒見稱美古人之 之有禮文者以刺之如大田甫田瞻彼洛矣等詩皆 李曰幽王之時君臣之樂措皆無禮文故詩人陳古

次色四戶戶馬

T

毛詩集解

金月四月石書 淺毛竊脂淺白也交交桑 尼有為其羽者正以其色 對竊丹言之則竊脂者竊其色也爾雅有竊毛皆 扈竊丹此一種也對剖華言之則竊脂者竊其肉也 爾雅曰桑扈竊脂鸡鷯剖革此一種也桑扈竊胎棘 之則知其為刺詩詩之辭雖不害而以音雅推之 以知政不然季礼之觀周樂也何以知古人之盛衰 知其為美詩此所以審聲以知音審音以知樂審樂 國之與亡哉交交桑扈有為其羽桑扈有二種 卷二十 副 則 女ロ

氏之說為曲質誰亦曰君子樂骨骨相也樂民之樂 祭然之文以相接文以相接則遠於暴亂宣特人所 為相正與王氏同王氏曰君子所以相樂者以其有 受天之枯毛氏曰胥皆也鄭氏曰有才知之名也鄭 之竊脂者言之此則陸農師之就也交交往來也言 者民亦樂其樂憂民之憂者民亦愛其憂買韻以旨 有禮文也人而無禮文則桑扈之不如也君子樂胥 桑尾之往來鸞然而有文也鳥之有文章正猶人之

欠已日記合

毛詩集解

金另下厂 度存於其間也觀其未章則可以見其和樂而不流 善哉天祐之矣王氏之說亦如毛氏之說今當用之 屏蔽萬邦矣惟其能屏蔽萬邦為國植蘇則四方 矣領頸也君子樂胥萬邦之屏君子能和樂則可以 夫所謂樂者豈其任情而行流連而忘返哉蓋有法 惟君子能與臣下相樂則天社之矣故曰受天之枯 以至此者則其禮法自戰飲自民難也如不戢飯不 倭亦當法其所為故曰之屏之翰百群為憲原其所 11:11 卷二十 語

欽定四庫全書 亦解然而不用其所以不用者以其音酒而思和桑 畏難安能受福如此之多邪故曰不敢不難受福不 於我也觀幽王之時如償之初庭之詩見其君臣於 以交際之間無有傲慢故我雖無求於福而稱自求 酒而思桑則足以見其不為酒所亂也惟其如此是 也夫肯酒馬之所以惡者以其能亂人也今也以肯 以罰其失禮今也君臣上下動有禮文則雖有罰爵 那那多也兕觥其蘇兕觥罰爵也古之王者致罰爵

毛許保解

Ē

宴飲之間傲慢失禮無所不至如實既醉止載號載 觀之則知桑扈之思古以賔之初筵觀之則知桑扈 莫不令德則無有失德者矣如曰莫不令儀則無有 慢輕侮無所忌惮則雖有罰爵亦不勝其罰矣此桑 湛露之詩燕同姓之詩也而皆恭儉無有失禮如曰 失儀者矣燕同姓如此則燕羣臣可知矣故以湛露 扈之詩所以刺之也若夫先王之時則禮教素行如 吸亂我遵豆屢舞做戲觀此四句想其樽豆之間做

次足四車全書 學 毛詩張解 幸

M. Alexander and Co.		A LANGE TO SERVICE STATE OF THE PARTY OF THE	VOICE TO SERVICE TO SE		
毛許集解卷二十七					自りでなれる。
=					
1-1-					
と					卷ニナセ
PACCE					
man a seisana	-		CTABLE CONTRACTOR	To the second second	PARKET THE PARKET